

節税・労務・助成金ニュース 101号

メリットが多い「勤怠管理システム」

いつもお世話になっております。NIPRE大阪の藤本 陵太です。

最近、お客様の会社や同業の方にお話を聞いていると中小企業もクラウド勤怠管理システムを利用されている企業が増えてきていると感じます。私が、約8年前に利用を始めた時は利用費用もかなり高く、また使いにくかったです。


それもそのはずで、勤怠のルールは100社あれば100通り。細かいところを含めるとまったく同じルールの会社はほぼありません。以前までは安価で利用する中小企業1社のために設計されている勤怠システムはありませんでした。

現在は、費用も下がっており、色々な機能・さまざまな勤怠ルールに対応できるように設計されています。

また働き方改革や過労死のニュースなど勤怠管理に関する意識の持ち方や対応が中小企業でも必要になってきている背景もあるかと思えます。


今年、インターバル制度（働き過ぎないように休憩時間を確保する制度）の導入や利用料が多くなる企業にはIT補助金の活用など助成金・補助金もあるので、導入のきっかけにもなっています。利用することで、業務効率化や不正防止などなど、さまざまなメリットがあります。

当事務所でも相談や導入サポートしていますので、お気軽にお問合せ下さい。




勤怠時間が自動集計

手間のかかるタイムカードの集計が不要になります。クラウド型なので、どこでも見れます。




シフト管理もできる

勤怠だけでなくシフト作成もできます。有給休暇の管理等もできます。



不正の防止

指紋認証やGPS機能等で不正に打刻ができません。支社がある会社は一元管理できます。



経営指標のひとつに

時間あたりの生産性の計算や前年度との比較など、経営指標のひとつに。

従業員のキャリア形成を支援して最大120万円！！～キャリア形成支援制度導入コース～

「キャリア形成支援制度導入コース」は人材育成に取り組むために、新たに下記のキャリアを支援する制度を導入する計画届を提出し、労働局の認定後、雇用保険加入の人数に応じて対象者に実施した場合に受給できます。

キャリアの「定期健診」の機会を整備しましょう！

従業員のキャリア形成における“気づき”を支援するために、年齢、就業年数、役職などの節目において、従業員が定期的にキャリアコンサルティングを受ける機会を、企業が設定するしくみのことを「セルフ・キャリアドック制度」といいます。

従業員に自身のキャリアの定期検診を受ける機会を整備・提供し、キャリア形成に関する従業員自らの課題認識や、キャリアプランの作成、見直しを支援するのが、セルフ・キャリアドックのねらいです。

日々忙しさの中で忙殺され続けるだけでは、成長がわかりません。時には手を止めて「自分のキャリアを見つめる」時間を作る。それによって仕事の効率を高め、従業員を成長させます。

メリットとして、次の3点が期待されます。

(1) 従業員が主体的に自らのキャリア開発に取り組むようになり、仕事へのモチベーションが向上する。

(2) 新規採用時の定着の支援や育児休業者の復帰などをスムーズに行うことができる。

(3) 上記の(1)(2)により、職場の生産性を向上させることができる。

就業規則に規程するなど一定の要件を満たした「セルフ・キャリアドックの導入」は助成金も活用できます。

- ### 助成金の対象となる人材育成制度
- ① **セルフ・キャリアドック制度の導入**
 - ・年齢、就業年数、役職などの節目において定期的なセルフ・キャリアドック制度を受ける機会を設ける制度を導入し、実施した場合に助成
 - ② **教育訓練休暇制度の導入**
 - ・従業員が自発的に教育訓練や各種検定を受けるために必要な教育訓練休暇制度又は教育訓練短時間勤務制度を導入し、実施した場合に助成

「キャリア形成支援制度導入コース」の助成額

支給対象制度	助成額	
	生産性要件不充足の場合	生産性要件を満たす場合
セルフキャリアドック制度の導入	47.5万円	60万円
教育訓練休暇制度の導入	47.5万円	60万円

* 生産性要件については、「猿でもわかる節税・助成金まとめ」で検索もしくはお問合せ下さい。